

農の学校だより

第2号

令和4年
7月発行

🍎 練馬区農の学校とは？



農作業の説明を受ける受講生



農作業の実技講習



練馬区農の学校 研修圃場

「練馬区農の学校」は、農業振興の一環として事業化されたもので、練馬の農業を支える新たな担い手（ねりま農サポーター）を養成する事業です。

施設は、高松1丁目に約3,700平方メートルの圃場を整備、平成27年度に開校しました。学校では、農業従事者の人手不足への対策として、農業者のもとで農作業を手伝える人材を育成すると共に、援農活動に向けた修了生と区内農業者の引き合わせなどを行っています。

毎年、練馬の農業に関心のある区民15名が入校し、農作業の知識や技術を身につけるため、区内農業者の指導を受けながら春夏野菜・秋冬野菜の生産を実践しています。

人材育成のコースは、初級、中級、上級の3コースを1年制で設置。希望者は最大で3年間通うことができます。

本校では、野菜生産や果樹・花卉栽培に関するノウハウを区内農業者の直接指導で学べるのが特色で、本物の農業を学べる場として、受講生の学習意欲も高いものとなっています。

🍎 春夏期の圃場より（初級コースの様子）



農業者から練馬の農業について説明を受ける座学



鍬の使い方を学ぶ受講生



マルチ張りの指導を受ける受講生

今年も4月から実技講習がはじまりました。「農作業は、はじめて！」という方も多くいましたが、鍬の正しい使い方をはじめ、農具や

農業用資材の種類を理解するなど、基礎からしっかり学びました。畝立てやマルチシート張りは、共同作業で行います。初めが肝心ということもありますが、写真のような仕上がりに！作付品目は、トウモロコシ（ゆめのコーン）、エダマメ（湯上り娘）、ジャガイモ（キタアカリ）など、10種類以上の農作物を選定し、約200㎡の畑を使って野菜生産に取り組みました。

🍅 ねりま農サポーターの活動紹介（受け入れ農業者）



ミニトマトのハウス栽培について説明を受けるサポーター

今回は、上石神井の受け入れ農業者さんで活動している「ねりま農サポーター」をご紹介します。こちらの農業者さんでは、多品目の農産物を生産しているので、お手伝いする農作業は多岐にわたります。

農業者さんがサポーターの向き不向きに合わせた作業を用意してくれたり、ご家族で和気あいあいとした雰囲気の中で作業を行っているのが印象的でした。訪問した際には、収穫したニンニクを冷暗所で保存するために紐で束ねる作業を行いました。



ニンニクを束ねるねりま農サポーター（写真中央）

※ねりま農サポーターの活用をご希望の方は、同封の「活用希望申込書」をお送りください。

🍅 ねりま農サポーターの活動紹介（農業イベント）



千羽扱ぎ体験のやり方を教えるねりま農サポーター（写真左）

6月5日（日）に行われた、「小麦畑で遊ぼう！小麦の収穫体験」というイベントに「ねりま農サポーター」7名が運営に協力する形で参加しました！場所は、（仮称）農の風景公園予定地（高松二丁目23番）。練馬区とJA東京あおさんの共同開催によるイベントです。

会場となった小麦畑には350名を超える区民の方々が訪れ、とても賑わいました。

「ねりま農サポーター」の皆様は、いくつかのポジションに別れて「小麦の収穫」や「千羽扱ぎ」を体験する参加者をサポートしました。千羽扱ぎを担当したサポーターは、力を入れすぎると小麦の穂がまるごと取れてしまうので、そのコツをうまく伝えることがむずかしく感じたそうです。ご協力いただきました皆様、大変お疲れ様でした！



手みを使って藁と穂を選別する参加者



ねりま農サポーターで記念撮影

🍆 農の学校事務局について

本事業では、「ねりま農サポーター」や区内農業者との連絡・調整を行うため、練馬区農の学校内に事務局を設置しています。事務局スタッフは、「ねりま農サ

ポーター」の受入を希望する受入農家さんの受付・登録をはじめ、「ねりま農サポーター」と農業者とのマッチング活動や援農に関する情報提供などを行っています。